

性急な学習は効果が少ない

前にも述べたことですが、「何回練習したんだから、覚えてもらわなくては……」と、子供に期待してはいけません。何回でも覚えるまで提出を繰り返すのが教師の役目だと考えることです。

従来の“初出の時に習得をねらう”漢字指導は、教師にとっても大変なことであり、子供にとってもかわいそうなことです。やってできることではないからです。こんな性急な学習は、一時的には覚えられても、必ず、間もなく忘れられてしまいます。

私の指導は、漢字こそたくさん提出されますが、指導者が「覚えなさい。」と騒ぎませんから、子供たちも漢字を覚える義務感に責められることはありません。にもかかわらず、数多く、反復して読まされるので、いつとなく結構覚えていきます。

また、読めるようになったからといって、漢字についての認識は、いっぺんに深まるものではありませんから、習得できたと思っても、なお繰り返し提出して読む機会を与える工夫が大切です。そうしてこそ、表現しうる“漢字力”に育つのです。